

幼稚園の実情を踏まえた多様な動きを経験できる遊びの工夫を行った実践例
(跳力を伸ばす遊びを通して)

学校名 和歌山市立宮前幼稚園 (和歌山県)
全園幼児数 99名 (男児53名 女児46名)
(本事例に係る問合せ先)
電話番号 073(423)3133
メールアドレス kg.miyamae@wakayama-wky.ed.jp

- 1 研究のねらい
進んで体を動かす子供を育てる。～子供の実態に即した遊び～
- 2 研究の概要
文部科学省が提唱している6項目の体力測定を行い、和歌山市3園(湊・宮前・山口)の幼児測定の結果、走・投・跳に分け、新たに『幼児期の運動指針』に示された内容を基に実践プログラムを作成し、園の取組を全13園に普及する。

○実践プログラムの紹介

□ 地域や幼稚園等の実情を踏まえた特色ある遊びの例
※「走る」「跳ぶ」「投げる」の基本的な体力測定を実施し、各園の実態に応じ、様々な運動や遊びを通じた環境の工夫に取り組む。

●自然環境の少ない地域環境の中で、ある資源を有効に使う環境の工夫について

・おさんぼ(小学校の敷地内にあるモノを活かす遊び)

☆地面のタイル・模様を活かしてケンパー③

☆階段・遠くへジャンプ

他に☆砂山・高低差を楽しみながら、走る

☆柳の木・高くジャンプ②

☆花壇のレンガ・バランス良く歩く

☆タイヤ・上に登る・跳び越える①

☆坂道・前に走る・後ろに走る

①



②



③



●跳躍を盛り込んだ環境の工夫



●子供の心を動かす環境の工夫



○幼児の安全を確保するため配慮(工夫)したこと

- 1 教員数は限られているので、その範囲で見取ることができる環境での遊び
- 2 子供一人一人の発達段階や健康状態を理解した上での、教師の支援や環境構成
- 3 用具や遊具を使用する際、危険でないかの確認と点検
- 4 子供がのびのび、楽しくするための最小限のルールづくり

○成果の意義と今後の課題

- 1 遊びの一環で環境を整えたことで、子供たちに無理なくおろすことができた。
- 2 過去3年間、体力向上に向けて取り組んだものの、子供・教職員・保護者が変わっているので、一年での取組は、難しい。今後も教職員が意識しながら、保護者巻き込んだ取組をしていきたい。

○ 研究内容

ぞうきがけで 心も身体もはピッカピカ☆
雑巾がけで腹筋・身体を支える・足腰を強くする。



おさんぽ おさんぽ 楽しいな！
身近な環境を利用して、様々な運動を取り入れる。



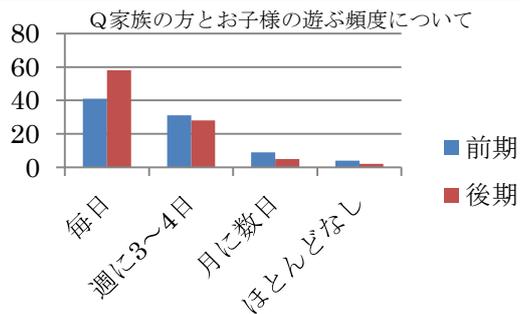
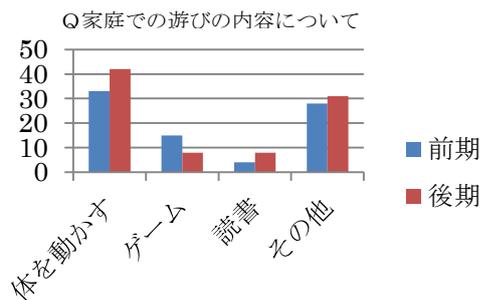
保護者の人も体力向上！！
玄関に保護者の人も簡単にできる環境を置く。



ジャンプ ジャンプ チャレンジ！！
毎朝、学年別に年齢に応じた“跳ぶ力”を主にした遊び



アンケート結果から
家庭での運動に対する意識の変化について考える。



新年度に向けて
公立幼稚園の体力向上に向けての取組を考える

子供たちが目に触れて“おもしろそう”⇒“やってみたい”という心の動きが見られる環境構成のあり方を、今後も検証していきたい。結果はすぐに表れるものではなく、継続的な取組を続けていきたい。また、今年度の取組を公立幼稚園13園に発信し、子供たちの体力向上に向けて、教職員が一丸となって取組んでいきたいと考える。